

「木育ワークショップ」



編集後記

木育ワークショップを行い、木の大切さや文化について学び、
1人ひとりがこれからの木との向き合い方を考えました。

令和5年度の2回目の活動には、13名が参加してくれました。

今回は、林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあいセンターの職員の皆様にご協力をいただき、木や森のしくみや大切さについてのお話、木や木からとれる木の実や松ぼっくりなどの自然からの贈り物を使って、ミニツリーづくりを行いました。

木育とは、子どもから大人にかけて「木とふれあい、木に学び、木と生きる」活動で、子どもの頃から、木を身近に使っていくことを通じて、人と木と森との関係を主体的に考えられる豊かな心を育むことを目的に実施しています。私たちの生活には、森の中の木から作られている物で溢れています。人と木は切っても切れない関係なので、これからは木でできている物を見かけたときは、木に感謝しながら大切に使って欲しいです。また、人だけではなく、生き物達の自然のお家でもあるので、汚したり汚れていたらちゃんと掃除（ゴミ拾い）などをして、いつまでも住みやすい環境をみんなで守りましょう。（編集者 吉田 綾稀）

＊活動の様子＊



・木と森のお話（左）

→ろ過実験の様子



・木育クラフト（右）

→好きな木材や木からとれる木の実等を使って、
色々な作品を作りました。

